

IV-152

ドライバーの安全意識に着目した
沿道店舗への入出経路選択に関する分析

茨城県土木部 正会員 大木正典
茨城大学 正会員 金 利昭
茨城大学 正会員 山形耕一

1. はじめに

近年、幹線道路沿いに立地する沿道型店舗への入出の際、右折横断、Uターンが多発しており、店舗出入口付近および周辺道路において、安全性の低下が起きている。しかし、店舗来店者（ドライバー）は複数の経路がある場合には、店舗までの距離、到達時間、入出のしやすさ、道路の安全性等様々な要因を考慮に入れ、入出経路を選択していると考えられる。このような状況下で沿道店舗への安全な入出方法を整備確立し、どのような施設整備を行うかが交通計画重要な課題となっている。

そこで本研究では以下の2点を目的とする。

- ①入出経路選択の実態を明らかにする。
- ②道路の安全性やドライバーの安全意識に着目して、経路選択要因を明らかにする。

2. アンケート調査の概要

1) 対象店舗の選定

複数の入出経路を持っている沿道型店舗、またはUターン、右折横断の必要がある茨城県内の以下の3店舗を選定した。

表1 対象店舗概要

裏道型	店舗名	伊勢甚ジャスコ（下妻店）
	店舗の特徴	比較的出入方法が整備されている。店舗裏に補助幹線道路があり迂回入出店が可能
側道型	住所	下妻市大字下妻
	店舗名	ビッグエム（那珂店）
	店舗の特徴	信号交差点の角にあり、比較的確々な経路が選択できる
Uターン型	住所	那珂郡那珂町
	店舗名	カスミ（那珂町店）
	店舗の特徴	出入口は349号A'1A'2に面しており、入出店の際にはUターンが多発している'92.12には349号A'1A'2出入口前の中央分離帯が危険防止のため閉鎖された
	住所	那珂郡那珂町

2) アンケートの内容

- ・運転者の個人属性：性別、職業等
- ・利用経路：実際の入出経路（店舗付近の地図を付記し実際の入出経路を記入してもらう）、入出経路の選択理由等
- ・経路選択意識について：一対比較法によりどちらの経路を選択するか等

3) 配布・回収状況

店舗来店者（実際に車を運転していた人）を対象にアンケート調査票を無作為に配布し郵送回収する。

表2 配布・回収状況

	配布枚数	有効回収数	有効回収率
伊勢甚ジャスコ	300票	69票	23.0%
ビッグエム	300票	70票	23.3%
カスミ	300票	78票	26.0%
合 計	900票	217票	24.1%

3. 経路選択実態の分析

図1は、実際に入出した経路をまとめたものである。この図を見るとわかるように店舗への入出店時には様々な経路、方法がありそれらによりかなり危険な状況が起きている。

ここで、実際に経路選択を行うことができる経路についての状況を以下に述べるが、ここでは厳密に比較できるサンプルを用いたため数としては少ない。

①A店（裏道型）

入店：土浦方面からの入店者を見ると右折入店（経路No.①）15台(75%)、迂回入店（手前の信号交差点右折その後③）5台(25%)となっている。

出店：古河方面への出店者を見ると右折出店（経路No.⑤）6台(42.9%)、迂回出店（⑥で出店後信号交差点を右折して125号へ）8台(57.1%)である。

②B店（側道型）

入店：国道349バイパス常陸太田方面からの車は、信号のない右折横断（経路No.⑬）2割よりは、側道を利用した左折入店（信号交差点を右折、⑫で入店）が8割弱存在する。

出店：水戸方面への車は6割が右折⑩⑪で幹線道路へ出るが、4割の車が遠回りであるが側道（⑬で出店後、信号交差点を右折）を利用している。つまり、距離的に近い幹線道路利用よりは数は少ないが、迂回してでも危険性の多い右折のない比較的安全な裏道等を選択している事があると考えられる。

4. 危険箇所との関連

実際に店舗来店者が、どのような場所を危険と感じているかを見てみるとA店では、④の左折出店時付近の場所が一番多く次に①の右折入店時が多い。B店では⑭の右折入店時、⑩の左折入店時が多い。C店ではUターンが多発している②が圧倒的に多い。

これらを見てみると、危険であるが仕方がなくその経路を利用しているという人と、または危険であるためにその場所を避け比較的安全な別ルートを利用しているという人達がいることが分かった。

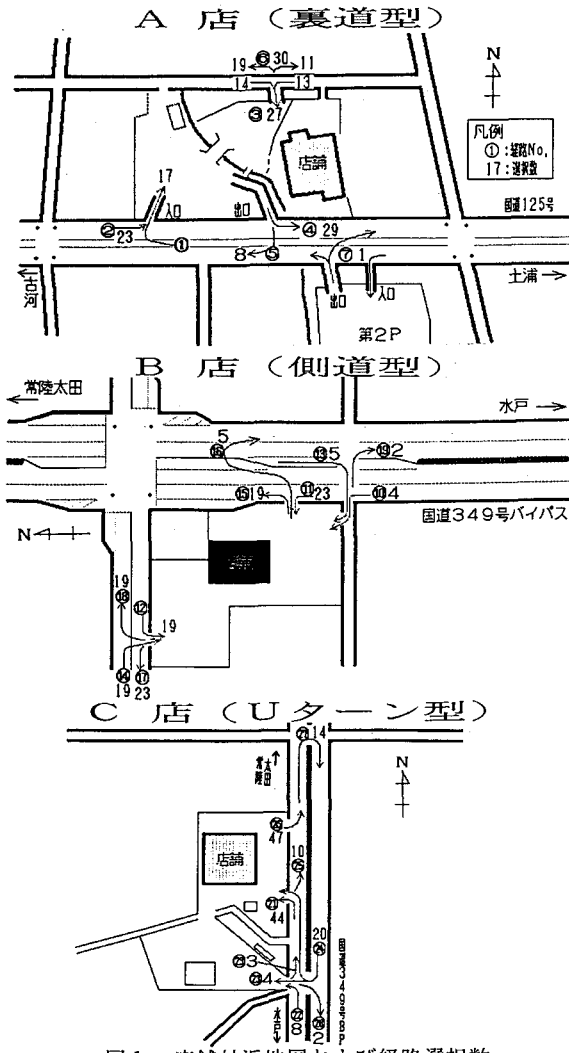


図1 店舗付近地図および経路選択数

5. 経路選択要因の分析

1) 入出経路別の経路選択理由(図2)

・入店時、出店時いずれの場合にも理由としてあげられているのは、「距離的に近い」「時間的に早い」等の利便性であるが、「信号に従って安全に」「右折横断せずに安全に」「道路の交通量」も若干であるがあげられており、安全性がある程度考慮されていることを示している。

2) 入出経路と安全意識との関連(図3)

入出方法別に経路選択が行われているサンプルにおいて、「交通安全意識が高い」と考えられる人と経路選択との関係を論じる。

これによると、安全意識が高い人は、比較的安全性が高いと思われる左折・迂回経路を自ら選択していると考えられる。

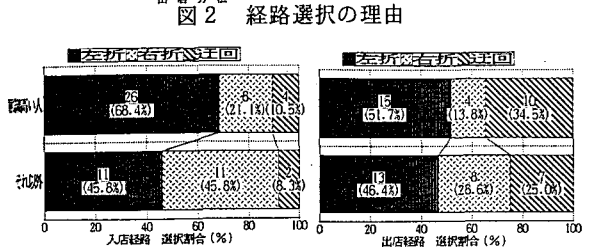
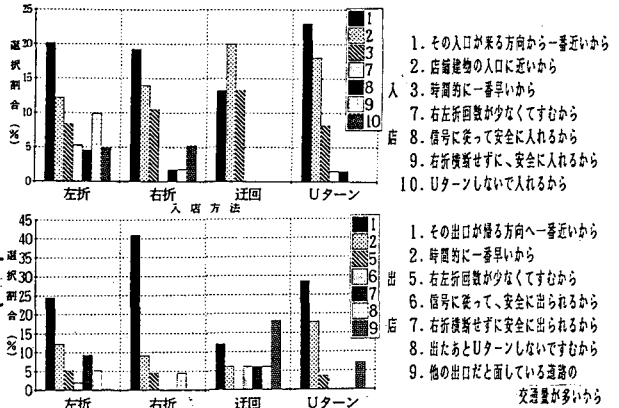


図3 意識の違いによる選択経路の違い

3) 経路選択要因(図4)

沿道店舗への入出店の際どのような状況を重視するか上位3番までの順位付けの結果をいかに示す。

これによると時間的、距離的に早い、店舗の近くに行ける等を重視しているが、安全性についても入出経路選択要因の1つとなっている。

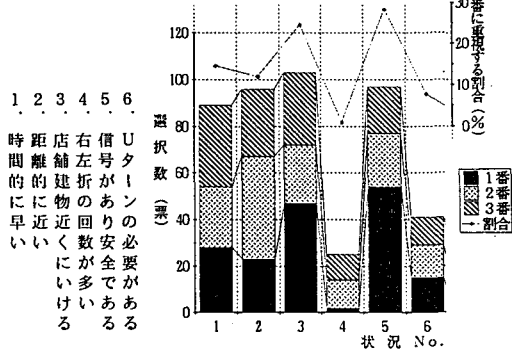


図4 入出時重要視する状況

6. まとめ

以下に本研究の結論を述べる。

- ①沿道店舗への経路選択およびその理由を分析した結果、危険な右折横断を避け、遠回りをしてでも安全性の高い迂回経路を利用する場合があることがわかった。
- ②入出経路選択要因として、時間、距離のみならず安全性も重要な要因であることを明らかにした。